

健康登山36:自然歩道18 (榛原駅～鳥見山公園～戒長寺～室生口大野駅)

コース	榛原駅 3.2km/78	鳥見山公園 1.3km/27	青龍寺 2.7km/49	十八神社 0.7km/13	山部赤人墓 1.2km/28	戒長寺 1.9km/27	葛神社 1.5km/26	赤人橋 4.8km/79	室生ダム 2.0km/33	室生口大野駅
水平距離	19.3km									
水平換算距離	18.0km									
累計高低差	登り971m、下り1027m									
標準歩行時間	6:00									
実績歩行時間	6:35									
		断面図								



山行報告

山行日 2008・05・01(木) 天候 晴れ後曇り 参加者 7名

行動 榛原駅9:40 公園登り口10:02 鳥見山公園展望台11:21~11:58 不動の滝12:18
 青龍寺12:38 十八神社13:43 赤人墓14:00 戒長寺14:33 葛神社15:13 室生ダム
 赤人橋15:34 室生ダム下部16:42 大野寺磨崖仏17:09 室生口大野駅17:15

記録

3月に東海自然歩道を長谷寺から鳥見山公園まで歩いたが、今回はその続きとして鳥見山公園から室生口大野まで歩いた。

榛原駅から北へ進み、国道165号線の交差点を右折するとすぐ西峠旧村道改修記念碑がある。ここが鳥見山公園への登り口で標高は350m、ここから標高640mの鳥見山公園展望台までは登りの一本道である。展望台で咲き始めたツツジや山々の景色を眺めながら早めの昼食をした。展望台から東へ向かって下り、途中で小鹿野の不動の滝に立ち寄り青龍寺まで一気にくだった。シャクナゲが満開だった青龍寺を拝観して東へ少し歩き国道369号線を横断する。横断時に玉立橋東詰交差点から200mほど国道を歩かねばならない、要注意。

額井岳山麓の緩やかな登りの自然歩道を進むと大ケヤキがありやがて十八神社に着く。小休止して写真を撮った。ここから後半の最高地点戒長寺までは約2kmで100mの登り、この辺りは自然歩道と言っても舗装路で夏場には暑くて歩きにくい。途中に山部赤人墓がある。戒長寺には樹齢700年のお葉つきイチョウがある。

戒長寺からコースを南にとり室生ダムへ向かって300m下ることになる。国道165線脇に葛神社がある、国道と近鉄線を横断し南下するとやがて室生湖が見えてくる。水深の浅いところでは大正池のように樹木が湖面か出ている。赤人橋で右岸に渡りここからダム周辺道を延々と歩くことになる。地元の話では榛原駅と室生寺大野駅までは等距離とのことだった。私たちは室生ダム下部まで4.8kmを1時間余りかけて歩いた。

少し休んだ後、駅へ向かって歩き、大野寺前の宇陀川右岸にある磨崖仏を見て17:15目的地室生口大野駅についた。

自然歩道 (榛原駅～鳥見山公園～室生口大野駅)



額井岳
10:04

鳥見山公園
展望台にて
11:28



青龍寺へ向う
12:24

青龍寺
12:39



十八神社にて
13:43

山部赤人墓
14:00



戒長寺への道
14:04

戒長寺境内
14:34



室生ダム
赤人橋を渡る
15:35

大野寺磨崖仏
17:09



名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：榛原駅～鳥見山公園～室生口大野駅）

参考資料、／HP、奈良の伝説、その他

- ◎ 青龍寺 : かつては真言宗御室仁和寺の末寺であった。(現在は法華宗)
御室寺復興の際に、弘法大師が滞在した霊場と伝えられ、堂宇が 12 坊も存在したそうです。
裏山の香醉山(近々登山計画有り)山腹に大日如来と刻まれた巨石があるそうです。

- ◎ 春日神社 : 小さな春日神社だが、綺麗にされている。

- ◎ 十八神社 : ^{いそは}極楽寺(廃寺)鎮護社であったが、榛原額井の産土神として現在に至る。
祭神 : 神倭伊波礼毘古命(神武天皇)
日本書記によると、神武東征(譚)のとき、伊那佐山(榛原地区)を偵察陣地にしていたが、かなり疲れ果てていた時、そこに〈額井の祖先〉の島津鳥鶺養(しまつとりうかい)が援軍に駆けつけ…その故事から額井の地に即位前の神武天皇が祀られたかも。

- ◎ 山部赤人墓 : 生没年不詳。東海自然歩道の道沿いに赤人の墓といわれる五輪塔がある。
聖武天皇に仕えた下級官吏でしたが、多くの歌を残し、天平 8 年(736)没した。
三十六歌仙の一人。叙景歌に優れ柿本人麻呂と共に歌聖と称されている。

田子(児)の浦ゆ 打ち出でて見れば 真白にぞ 不尽の高嶺に 雪は降りける
万葉集巻 3—3 1 2
田子の浦に うち出でてみれば白妙の 富士の高嶺にゆきは降りつつ
百人一首

*室生湖には山部赤人に因み赤人橋(昭和 49 年 1 月竣工)が架けられている。

*山部赤人は滋賀県蒲生町で生涯を閉じたとされ、国道 4 7 7 沿いに、山部神社と赤人寺が有ります。

- ◎ 戒長寺 : 標高 600m の高台にある真言宗のお寺
3 3 代用明天皇の勅願で、聖徳太子が建立された。

後に、空海(弘法大師)が修行した霊場で、戒場薬師と称される古刹です。
藤原時代は隆盛を極めたが衰退し、現在の本堂、庫裏、鐘楼門等は元治元年

(1864)頃の再建。

本尊は薬師如来。梵鐘(国重文)は正応4年(1291)の十二神将が陽鑄されている。

【お葉付きイチョウ】は樹齢700年、昭和38年3月28日県天然記念物。

葉の先に実(銀杏)がつく。

シダ類のように胞子を作る胞子植物と。種を作る種植物の中間性をおびている。

全国各地でお葉付きイチョウが有りますが、奈良県下では、次の4箇所です。曾爾村の門僕神社、吉野の安楽寺、桜井市の観音寺、榛原の戒長寺。

戒長寺境内では他に、隣接する戒場神社横にある「ホウの木」も樹齢300年で県天然記念物に指定されています。

裏山は戒場山(738m)で額井岳からの縦走路が有ります。(榛原起点 3時間50分)

◎ 葛神社 : 創建年不明

祭神: 天照大神

摂社: 三輪明神/大己貴大神

磐座社/九頭龍明神

(葛=九頭(竜)・国津(神社)に通じ、宇陀地方に多いそうです)

古老の伝: 第11代垂仁天皇25年のとき、倭の笠縫邑から伊勢へ遷る時、この地の東にある現『篠畑神社』に鎮座され、それを御導守された豊稻入姫命と倭姫命の2柱の神を篠畑神社の摂社として祀っていたが、後に天照大神を祀る様になった。

◎ 篠畑神社: 元伊勢。天照大神を一時的に祀った伝承を持つ神社をいう。

移動は崇神天皇の皇女豊鋤入姫命により、倭国笠縫邑に移され、その後垂仁天皇の皇女倭姫命に引き継がれ、約60年かけて行われたといわれる。

移動順

起源は大和の笠縫邑、それがあるとき、移動を開始、各地を転々として、最終的に伊勢におちついた。過って伊勢神宮があった神社を元伊勢と呼びます。

①倭国(大和) 笠縫邑②丹後・籠神社③倭国 与喜天神宮…⑥倭国 大神神社…

⑧大和 篠畑神社……………⑳伊勢 五十鈴宮

*倭笠縫邑=桧原神社(大神神社摂社)であるとされています。

【籠神社】丹後国一ノ宮(宮津市、天の橋立)。

前漢時代の邊津鏡や後漢時代の息津鏡の宝物があり、土中からの発掘でなく、伝世鏡として日本最古。宮司は、代々、海部氏が努め現在の宮司さんは(1996年現在)で82代を数えます。

海部氏の系図は学術調査の結果、本物であることが証明され、1976年、国宝に指定されています。

元内閣総理大臣の海部俊樹氏は、この海部一族の末裔だそうです。

系図の始祖は彦火 明 命で古事記では、邇邇芸 命と兄弟なので、天照大神の孫である。日本書記では瓊瓊杵尊の子供とあり天照の曾孫にあたる。

詳しくは飛鳥昭雄/三神たける著の「天照大神の謎」「神武天皇の謎」を読むとそれなりによくわかります。

◎ ぬれ地蔵：伊勢街道の阿保越道に面している石仏。崖を1.82mの舟形に掘り窪め、中に地蔵菩薩を半肉彫りにしてある。雨が降ると岩壁が濡れ、水が滝のように落ちてくるため、この名が付けられたといわれる。(鎌倉中期の作)

ダムが干上がっていたら、ダム湖の対岸から見る事が出来るという。地蔵橋を渡って左へ、天満川を渡りダム湖に突き出たコンクリートの突端から対岸に見えるらしいです。

◎ 室生ダム：昭和49年3月完成。(旧名宇陀川ダム)ダム湖名は室生湖。提高63.5m重力式コンクリートダム。木津川上流ダム群の一つです。

◎ 布袋尊石仏：室生湖下戸橋の近くの路傍にある石仏。布袋尊は七福神の一人で、9～10世紀、中国唐の末期に実在した中国「後梁」の高僧。袋の中に生活必需品を全て入れ、托鉢の食べ物残りも、袋の中に蓄えた。人知を超え、超能力を持ち吉凶や天候を占った僧。

◎ 大野寺：真言宗。役行者が室生寺と同時に開創し、天長元年(824)空海が一字を建立

して「弥勒寺」と称し、のち地名から大野寺と名付け、古くから室生寺の末寺です。

明治 33 年 12 月大火でほとんどの伽藍を消失しました。

小糸枝垂れ桜が有名です。なかでも樹齢三百年の古木が 2 本あります。室生口大野駅から徒歩 5 分で大野寺です。

◎ 大野寺の身代わり地蔵

大野の郷士松山平左衛門の侍女に小浪という女がいた。常にこの地蔵を信仰していたが、あるとき、松山家が大火で全焼し、小浪の仕業と嫌疑がかかり、火あぶりの刑に処せられることになった。

刑場で一心に地蔵さんを念じて合掌していると、やがて炎々と燃え上がる猛火に包まれ、クワッと光が放ったかと思うと、小浪のからだは一変して地蔵さんの姿となった。

それと同時に遥か向こうの石の上に合掌した小浪の姿が現れた。

小浪はその日から剃髪して妙悦という尼僧となり、一生感謝念仏に送ったという。

◎ 大野寺磨崖仏：興福寺の僧「雅縁」が笠置山の磨崖仏を模して造立することを発願。

宇陀川対岸の屏風ヶ浦の岩壁に、承元元年(1207)10 月から 1 年かけ、宋人石工、伊行末とその一派が、高さ 14m の光背形窪みの中に、高さ 10m の弥勒菩薩像を線刻した。

承元 3 年(1209) 3 月 7 日後鳥羽上皇の御幸で開眼供養が盛大におこなわれている。

随行 60 余人であったと記録にあるそうです。